２０１９年度（令和１年度）

事　業　報　告　書

社会福祉法人　星谷会

社会福祉法人星谷会　２０１９年度事業報告

＝　目　　次　＝

社会福祉法人星谷会　事業報告　２

星谷学園・星谷デイさくら　事業報告　１０

計画相談支援事業所ほしや　事業報告　１５

あまいろ　事業報告　１６

地域活動支援センター結夢　事業報告　１９

結夢＋　事業報告　２２

ＳＥＬＰビナ　事業報告　２３

海老名市障害者第一デイサービスセンター　事業報告　２９

海老名市障害者第二デイサービスセンター　事業報告　３３

海老名市障害者支援センターあきば　事業報告　３７

グループホーム事業報告　４２
（みずき・しおん・とんぼ・かぶとむし・はなきりん・てんとうむし）

地域生活支援センターここ・すき　事業報告　４４

２０１９年度　社会福祉法人星谷会事業報告

１．2019 年度の概要

2019 年度は、前年度から取り組んだ新規事業の定着や持続可能な法人体制の整備が大きな課題であった。このうち新規事業については利用件数の増加や収支の改善がみられている。一方で、障がい福祉サービスの実施主体の多様化にともない、新たな利用者の獲得が課題となった。

法人組織では、新たに総合施設長代理を配置して人材育成に取り組み体制を整え得るとともに事務長を配置し法人機能を強化した。

また、社会福祉法人の責務とされている地域貢献事業では、継続的に子ども食堂を開設することができた。その他、映画会や作品展などを開催した。

星谷会は、新規事業の実施及び支援体制の強化のため常勤職員定数を増やしてきたが、今年度も 1 名増員し、次年度に向けてさらに 3 人増員するための採用活動を行った。

２．法人重点事業の取組み状況

(1) 新規事業の充実と安定的な運営

障害者支援センターあきばの契約者は今年度だけでも 8 人増え 63 人となった。短期入所利用者数も月 20 人から月 80 人近くまで増加し、収支は黒字に転じた。自閉症生活介護事業所あまいろも重度障害者加算事業に取り組み、事業活動収支差額は改善した。

(2) 法人組織及び運営体制の見直し

支援と事務部門に新たに管理者を配置し、法人運営体制の強化を図った。法人組織及び職位の見直しについては次年度に検討課題となった。

(3) 人材育成とキャリアアップシステムの再構築

総合施設長代理を中心に個別支援計画について継続的に研修会を開催した他、利用者の高齢化に対応するため介護技術研修にも取り組んだ。**キャリアアップシステムの再構築については職位、職階の見直しに合わせて次年度に持ち越しとなった。**

(4) 収入増の取り組み

家族負担を考慮し5月の10連休のうち3日間を支援日として開所日数を増やした。この取り組みは次年度の指定管理事業所の一部祭日開所の取り組みにつながった。また、海老名市に特別支援校卒業生の進路についての情報共有について申し入れを行った。

(5) 地域貢献事業の実施

子ども食堂（事業名：社家でいっしょに食べよう）を地域ボランティアと法人職員有志で 9 回開催した。また、2 月に映画会（事業名：やさしくになあに上映会）を開催した。福祉講演会は感染症対策のため次年度に延期した。

(6) その他

就労支援を実施している法人内事業所の連絡会を設置した。中期計画の事業検証は年度内に出来なかったため次年度計画作成に合わせて行うこととなった。

３．2019 年度の主な事業内容

【事業所の運営】

(1) 星谷学園、星谷デイさくら、ＳＥＬＰビナ、あまいろの運営

(2) グループホームみずき及びはなきりんの運営（6 住居）

(3) 地域生活支援センターここ・すきの運営（居宅介護及び移動支援事業）

(4) 計画相談支援事業所ほしやの運営

【指定管理制度による事業】

(1) 海老名市障害者第一・第二デイサービスセンターの運営

(2) 海老名市障害者支援センターあきばの運営

【委託による事業】

(1) 地域活動支援センター事業及び相談支援事業の実施（結夢の運営）

(2) 結夢＋の運営

(3) 海老名市自立支援協議会の運営（事務局）

【法人運営・財務】

(1) 理事・監事及び理事長の選任

(2) 学園建設積み立て　ビナ積立金取崩し　あまいろ運営費長期貸付

【職員処遇】

(1) 福祉・介護職員処遇改善及び特定処遇改善の実施

(2) 健康診断・ストレスチェック等の実施

(3) 労災上乗せ保険の加入

【規程の改定など】

(1) 就業規則等の改定　　年次有給休暇（5 日取得）　諭旨解雇条文追加

(2) 嘱託・パート就業規則　　無期労働契約転換規程追加

(3) 給与規程の改定　　星谷学園夜間支援手当増額　事務長の等級及び手当新設
通勤手当の上限変更

(4) 星谷会印章取扱い規程の一部改定

(6) 経理規程の一部改定　　サービス区分の追加

(7) 職務権限規程の改定

【施設・設備整備など】

(1) 星谷学園トイレ等の改修

【その他の事業】

(1) 地域貢献事業

①子ども食堂の実施

②映画会の開催

(2) 地域生活サポート事業

①防災拠点事業　防災備品の整備等

②地域交流事業　星谷祭り、えびなこの街で暮らそう、フェスタ、ボランティア交流会
実践報告会、きら星コレクション（作品展）

(3) 製品販売やショップを通じた交流事業

①イベント開催　陶芸教室等

②実習生の受け入れ及び中学生職場体験受け入れ

③ボランティア受け入れ

(4) 地域障がい者団体等との交流及び連携事業

福祉をつくる会　こころのバリアフリー実行委員　近隣施設との合同事業

４．利用契約及び職員配置状況

年度末

事業所名		本部	星谷 さくら	ビナ	あまいろ	第一デイ	第二デイ	第三デイ	ホーム	ここ すき	結夢 結夢＋	合計
契約(登録)者数			68	39	10	39	37	61	38	114	502	延 908
職員合計		2	53	11	9	11	10	24	41	2	8	171
内訳	常勤	2	30	6	4	7	5	13	5	1	7	80
	非常勤	―	23	5	5	4	5	11	36	1	1	91

採用職員：常勤 7　非常勤 12　　退職職員：常勤 4　非常勤 12

５．２０１９年度神奈川県法定研修受講状況

(1) 神奈川県サービス管理責任者等研修

研修名	受講者	備考
県サービス管理責任者等基礎研修	稲葉文彦（ビナ）・加川みかの（かっぱ堂）・林由希子（あきば）	シーガル研修・研究機構
	鈴木越（レインボー）・星義美（学園・）武富康祐（かっぱ堂）・大森美沙季（学園）	かながわ福祉サービス振興会
	小原健一（あまいろ）・赤木優子（学園）・寺田潤（デイさくら）	県社協
県サービス管理責任者等更新研修	林田容（レインボー）・赤塚久美子（あまいろ）白井周一郎（ビナ）・小坂浩二（あきば）	KCN

(2) 神奈川県強度行動障害支援者養成研修

研修名	受講者	備考
県強度行動障害支援者養成研修（基礎）	安盛康次郎（学園）・赤塚久美子（あまいろ）	清和会
県強度行動障害支援者養成研修（実践）	安部可奈子（あまいろ）・塚田奈津子（レインボー）	

(3) 神奈川県行動援護従事者養成研修

研修名	受講者	備考
神奈川県行動援護従事者養成研修	寺田潤・村井優子(デイさくら)・金城栄司(あまいろ)・長谷山洋介（レインボー）	藤沢育成会

(4) 神奈川県相談支援従事者研修

研修名	受講者	備考
県相談支援従事者初任研修	大滝奈緒美（ビナ）	
県相談支援従事者現任研修	三澤貴広（計画ほしや）・白井周一郎（ビナ）・白石雄希（あきば）	KCN

(5) 神奈川県サビ児管研修及び相談支援従事者等研修ファシリテーター

ファシリテーター
三澤貴広（デイさくら）小島博昭（学園）白井周一郎（ビナ）白石雄希（あきば）亀田明芳（GH)谷岡裕子（結夢）河原雄一（学園）

６．法人委員会の活動状況

(1) 研修委員会

階層別研修

研修名	対象者	テーマ・内　　容	講師	実施時期	会場
初任者研修	勤務４年未満	「個別支援計画の基本について１」 個別支援計画の質を高める演習を通じ支援計画作成についての 視点、考え方、方法等を学ぶ	河原雄一 総合施設長	7 月 30 日 参加者数 29 名	海老名市文化会館
		「個別支援計画の基本について２」 個別支援計画の質を高める演習を通じ支援計画作成についての 視点、考え方、方法等を学ぶ	河原雄一 総合施設長	10 月 29 日 参加者数 18 名	海老名市文化会館
中堅職員研修	4 年以上	「モニタリングの充実について」 受講者の担当する事例を用いて共通のツールを使ってモニタリング会議等の実際を学ぶ	河原雄一 総合施設長	8 月 27 日 参加者数 31 名	海老名市文化会館
		「職員のマネジメント～コーチングについて」 グループワーク、ロールプレイ等の演習を中心にコーチングについての理解を図る	河原雄一 総合施設長	11 月 26 日 参加者数 24 名	海老名市文化会館

内容別研修（課題別研修）

研修名	対象者	テーマ・内　　容	講　師	実施時期	会場
内容別研修	全職員	「支援者としてのアンガーマネージメント～支援困難な人との向き合い方～」	岸川学氏 神奈川県保健福祉大学講師	12 月 23 日 18:00～20:00 参加者 34 名	海老名市文化会館1
		「介護技術研修１（入所）」 車椅子の使用方法、体位変換 移乗、移動についての講義と演習	安藤翔介護福祉士 海老名市障害者支援センターあきば	7 月 24 10：00～12：00 参加者 14 名	星谷学園
		「介護技術研修２（入所）」 排泄、更衣介助についての講義と演習	安藤翔介護福祉士 海老名市障害者支援センターあきば	9 月 25 日 10：00～12：00 参加者 10 名	星谷学園
		「介護技術研修３（入所）」 食事についての講義と演習	安藤翔介護福祉士 海老名市障害者支援センターあきば	11 月 13 日 10：00～12：00 参加者 11 名	星谷学園
		「介護技術研修４（入所）」 清拭・入浴についての講義と演習	安藤翔介護福祉士 海老名市障害者支援センターあきば	3 月 11 日 10：00～12：00 参加者 11 名	星谷学園
		「介護技術研修①（日中）」 車椅子の使用方法、体位変換 移乗、移動についての実技と講義による研修会	安藤翔介護福祉士 海老名市障害者支援センターあきば	1 月 14 日 17：30～19：30 参加者 26 名	あきば

全体研修

研修名	対象者	テーマ・内　　容	発表者等	実施時期	会場
法人 全体研修	全職員	法人実践発表会 ・かっぱ堂 「精神疾患の方への支援」 ・あまいろ 「自閉症の方への支援」 ・GH 「多飲水の傾向のある方への支援」 総評を冨岡貴生氏 （社会福祉法人唐池学園　貴志園園長）	発表者 加川みかの支援員 小原健一支援員 渡部孝之支援員 総評 冨岡貴生氏 （社会福祉法人唐池学園貴志園園長）	2 月 21 日 18：00～20：00 参加者　６７名 外部参加者 ５名	海老名市文化会館

その他の研修

・自閉症支援研修　　ADS 者の支援について学ぶ。
・安全運転講習　　高齢者及び初任者を対象に運転の適性・技能を確認する。
・新採用職員研修　　2020 年 4 月採用職員の採用前研修
・採用後 3 か月研修　新規採用者の研修

(2) 人権委員会

これまで使用していた人権擁護チェックシートを一部修正し、法人全職員を対象に人権擁護チェックの実施と、人権研修として、利用者支援の実践に重要な利用者の意思決定支援についての研修会を 3 月に計画したが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止することとし、次年度に実施することとした。

(3) 採用チーム

今年度もリクナビを新卒求人媒体として活用した。委員の主な活動としては

・リクナビブログ記事の作成　・就職説明会での先輩説明
・ 実習時の受入れ担当
・職員の母校への採用活動
・福祉のしごとフェアでの説明担当

などを積極的に行った。また、次年度はリクナビからマイナビへ新卒求人媒体を変更することに伴い、常勤職員へ先輩情報の記事や写真の協力をお願いするなど開設準備を行った。

(4) 定着支援チーム

新採用職員の定着率を高めるための取り組みとして、以下の内容で研修及び振り返りを行った。今年度の対象者は 3 名。

実施日	内容	意図
5/22(水)	星谷会のスタートを同期の仲間と振り返る	・同期の仲間作り ・悩み・戸惑いなどを聞く
6/26（水）	今日からあなたも電話の達人	・電話マナーや接客スキルの習得
7/24（水）	私を介助してください	・車いすの介助体験によって介助される側の気持ちを理解する
9/25(水)	さぁ、あなたならどう伝える？	・連絡ノートの記載方法の工夫

11/27（水）	理事長と学ぼう「エコグラム」	・自分の性格の傾向を知る
2/26（水）	「新人研修」の卒業式 ・〇〇さんはこんな人（担当利用者の紹介） ・後輩に伝えたいこと	・利用者理解の促進 ・内容をまとめ発表をすることの練習 ・2 年目への意欲につなげる

(5) リスク管理委員会

ヒヤリハット事例及び事故報告の収集及び検討を行った。事故報告を利用者・事業所への不利益の度合いによりレベル分けを行った。また記録ソフト活用の試行を行った。

事項報告件数　　：**257 件**（前年度比+60）

ひやりはっと件数：**397 件**（前年度比△124 件）　　（　）内は前年度数

内容	事故件数	ひやり件数	内容	事故件数	ひやり件数
転倒・怪我	89(73)	73(146)	所在不明	6(5)	21(28)
服薬	34(14)	46(40)	金銭	4(5)	2(7)
器物破損	23(15)	11(21)	誤食・異食	3（0)	25(18)
車両	23(21)	2（0)	紛失	3(14)	25(15)
他傷	19(16)	43(40)	衛生・環境	1（0)	19(26)
確認・連絡	16(11)	33(72)	誤嚥	0(1)	2(9)
不適切対応	7(1)	13(8)	その他	22(19)	77(86)
個人情報	7(2)	5(5)	計	257(197)	397(521)

※県・市への報告事故：5 件(骨折 2、縫合 1、通院 2)

事故報告レベル

レベル１	レベル２	レベル３	レベル４	レベル５
147	97	16	2	0

(6) 防災委員会

法人防災委員会を５回開催し法人防災マニュアルについて検討した。10 月 1 日には法人合同防災訓練を実施し、本部での情報集約や広域避難場所までの避難訓練を実施した.

(7) 広報委員会

法人広報誌「カシオペア」を発行した。また、法人ホームページの更新等、管理運用をした。

(8) 海老名市要望書

7 月に法人から海老名市長あて下記の点について要望書を提出した。そのうち地域生活サポート事業(重度重複障がい者支援補助)については次年度実施につながった。

・地域生活サポート事業及び地域生活拠点事業の推進
・指定管理事業における事業運営について
・地域ニーズの把握について
・福祉人材確保の取り組みについて

６．理事会・評議員会開催状況

理事会

回	実施日	議　　案
第 135 回 理事会	5 月 27 日	第 1 号議案　　2018 年度事業報告について 第 2 号議案　　2018 年度決算報告及び監事監査報告について 第 3 号議案　　役員改選案について 第 4 号議案　　苦情解決第三者委員の選任について 第 5 号議案　　規程改定について （1）給与規程等 （2）職務権限規程 第 6 号議案　　福祉充実残額について 第 7 号議案　　定時評議員会の開催について 主な報告事項 （1）理事長及び執行理事の業務報告
第 136 回 理事会	6 月 17 日	第 1 号議案　　理事長の選任について
第 137 回 理事会	10 月 28 日	第 1 号議案　　2019 年度第一次補正予算について 第 2 号議案　　規程改定について 第 3 号議案　　評議員会の開催について 主な報告事項 （1）特定処遇改善加算について （2）最低賃金の変更について （3）理事長及び執行理事の業務報告
第 138 回 理事会	3 月 16 日	第 1 号議案　　管理職員の配置について 第 2 号議案　　2019 年度第二次補正予算について 第 3 号議案　　2020 年度事業計画について 第 4 号議案　　2020 年度予算について 第 5 号議案　　規程改定について 第 6 号議案　　グループホーム設置計画について 第 7 号議案　　評議員会に開催について 主な報告事項 （1）理事長及び執行理事の業務報告

評議員会

回	実施日	議　　案
第 69 回 評議員会	6 月 17 日	主な報告事項 （1）評議員の交代について （2）2018 年度事業報告について （3）規程改訂について （4）苦情解決第三者委員の選任について 第 1 号議案　　2018 年度決算報告及び監事監査報告について 第 2 号議案　　福祉充実残額について 第 3 号議案　　理事・監事の選任について
第 70 回 評議員会	11 月 11 日	主な報告事項 （1）規定改定について （2）特定処遇改善加算について （3）最低賃金の変更について （4）理事長及び執行理事の業務報告 第 1 号議案　　2019 年度第一次補正予算について

第 71 回 評議員会	3 月 23 日	主な報告事項 （1）管理職員の配置について （2）規定改定について （3）地域貢献事業の状況について 第 1 号議案　　2019 年度第二次補正予算について 第 2 号議案　　2020 年度事業計画について 第 3 号議案　　2020 年度当初予算について 第 4 号議案　　グループホーム設置計画について

運営協議会

回	実施日	議　　案
第 2 回 運営 協議会	11 月 25 日	議題 （1）2018 年度事業報告及び決算報告 （2）2019 年度事業の状況 （3）2019 年度補正予算について （4）地域貢献事業について （5）その他　意見交換等

２０１９年度　星谷学園・星谷デイさくら事業報告

１．重点課題の取組み状況

（１）強度行動障害者支援の実施（支援シート作成及び記録の作成）

3 名の職員が「強度行動障害支援者養成基礎研修及び行動援護従事者研修」を受講し、支援体制の充実に努めた。その職員を中心に新たな通所対象者を加えて支援シート及び記録の作成を実施した。

（２）給食会議の定期的開催（内容の充実）

定期的な食事会議は実施できなかった。2019 年度は主に、栄養士、調理員、支援員等が随時必要に応じ話し合いを実施し食事提供の充実を実施した。

（３）介護技術の研修の実施

利用者の介護度の高さに適切に対応するため、介護技術の実践的な研修を介護福祉士有資格者の職員を中心に　7 月・9 月・11 月・3 月の年 4 回実施した。

（４）ケース検討会議の充実

利用者理解を深めるため、個別支援計画作成にあたって「ストレングスを中心とした基本的な視点や意義。事例を通じアセスメント力を高めるための演習」等事業所内の職員研修を年 8 回実施した。8・9 月及び 1・2 月に、新しい書式を用いて「モニタリング会議」を実施した。

（５）記録ソフトの活用

記録ソフトを活用し、日々の支援記録に充実に努めた。また、アセスメントを充実する意味から、次年度に向けて「新アセスメント・新個別支援計画」の新たな書式を作成し、利用者理解の充実を図った。

（６）建物設備の改修

風呂場やトイレの改修、カーテンの架け替え等建物の老朽に伴う施設内箇所の改修を実施した。

２．施設入所支援の実績

⑴ 入所利用者の状況（２０１９年度末現在）

入所　入退所状況

	男	女	入退所前後の状況
前年度末利用契約者数	20 人	18 人	
2019 年度新規利用契約者数	1 人	1 人	
2019 年度退所利用者数	0 人	0 人	
2019 年度末契約利用者数	21 人	19 人	

入所　利用状況

年間延利用者数	13,930 人	1 日の平均利用者数	38.1 人	年間利用率	95.1%

入所　年齢構成　　平均年齢 54 歳（最高 77 歳）

20～29	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
0	0	0	1	18	12	6	3

入所　障害等級別状況

A1	A2	B1	B2	身障手帳
22	15	3	0	10

入所　障害支援区分

1	2	3	4	5	6	平均
0	0	0	0	14	26	5.6

入所　診断名（延人数）

自閉症･自閉傾向	ダウン症	知的障がい	精神障がい	身体障がい
10	4	40	6	11

(2) 短期入所（宿泊）利用状況

（　）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延宿泊日数	利用率
77 人（+1 人）	43 人	1,035 日（＋389 日）	70.6%（↑）

(3) 日中一時利用状況

（　）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延日数	利用率
34 人	23 人	646 日（－33 日）	44.1%（↓）

３．生活介護の実績

(1) 利用者の状況（星谷学園・星谷デイさくら）

入退所状況（入所・通所）

	星谷学園		星谷デイさくら		備考
	男	女	男	女	
前年度末利用契約者数	32 人	23 人	10 人	3 人	
2019 年度新規利用契約者数	2 人	2 人	3 人	2 人	デイさくら・星谷入れ替え含む
2019 年度退所利用者数	4 人	2 人	1 人	2 人	デイさくら・星谷入れ替え含む
2019 年度末契約利用者数	29 人	24 人	12 人	3 人	

通所利用者　年齢構成

平均年齢 44 歳

	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
学園（13）	0	1	3	5	3	0	1
さく（15）	0	2	2	9	1	1	0

通所利用者　障害等級別状況

判定	A1	A2	B1	B2	身障手帳
学園	9	3	1	0	4
さくら	3	１０	2	0	3

通所　障害支援区分

区分	1	2	3	4	5	6	平均
学園（21）	0	0	0	2	5	6	5.3
さく（11）	0	0	0	1	4	１０	5.6

(2) 日中活動利用状況（入所・通所）

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
学園提供日		22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	23	270
学園	利用者	54	55	55	55	55	55	55	55	55	55	58	53	(55.3)
	延数	1,088	1,145	1,126	1,177	1,066	1,115	1,176	1,118	1,141	1,101	1,045	1,200	13,498
さくら提供日		22	23	22	23	23	22	23	22	21	20	19	21	261
さくら	利用者	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	10	15	(13)
	延数	249	248	243	260	211	232	255	257	244	234	215	209	2857

(3) 日中活動内容

2019 年度末現在

単位	グループ名	入所利用者	通所利用者	主な作業内容
星谷学園 生活介護	あさがお	男５名　女７名	男５名　女４名	アルミはがし、繊維ほぐし、タオルたたみ、刺しゅう、運動
	レインボー	男 14 名　女５名	男１名　女１名	ｱﾙﾐはがし、繊維ほぐし、タオルたたみ、缶つぶし、エコキャップ、散歩
	マンボウ	男２名　女７名	男１名　女１名	アルミはがし、繊維ほぐし、ﾀｵﾙたたみ、ししゅう、DVD ｹｰｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ、散歩
星谷デイ さくら	さくら	男０名　女０名	男 12 名　女３名	ｱﾙﾐはがし、繊維ほぐし、ﾀｵﾙたたみ、匂い袋、創作活動、散歩
他事業所生活介護利用者		女１名 （再掲）		かっぱ堂

行　　事

旅行係り	宿泊旅行、日帰り旅行の実施に関すること
星谷まつり	星谷まつりの実施に関すること

(4) 作業収益

収入額

項目	金額
小計①	259,986
繰越金②	39
利息③	0
収入総額①+②+③	260,025

支給額

項目	金額	前年度比
支給総額	259,210 円	-30,000 円
両替手数料	660 円	
次期繰越額	155 円	
1 人当たりの分配金（満額支給者）	3,880 円	-500 円

(5) 通所方法

施設送迎	家族・外部サービス	自力（徒歩）	計
21 人	6 人	1 人	28 人

送迎サービス実績

延利用件数	7,921 人	前年度比-449

４．研　修（外部）

実施日	研修内容	参加者
5 月 29 日・6 月 12 日	県連合会新任職員人権研修	藤田・内山
5 月 30 日・6 月 19 日・10 月 10 日	アンガーマネジメント研修（県連合・高齢研・共同会）	島野・内田・秋山・沼田・原
6 月 7・10 日：7 月 12 日・16 日	県社協初任者キャリアパス対応生涯研修	内山・藤田
7 月 10・11 日日	関東地区知的障害関係職員研修会	三澤・寺田・河原
7 月 17 日・2020 年 1 月 17 日	摂食嚥下の基礎知識・口腔ケア（県連合会）	秋山・大芝・名倉・青木
7 月 23・24 日	全国知的障害関係施設長等会議	河原
7 月 25 日	県連合会フロー研修	島野
7 月 31 日	県社協キャリアパス対応生涯研修チームリーダー	内田
11 月 21 日	モチベーションマネジメント研修	内田

５．給　食

給食は業務委託により提供しており、「郷土料理食」などの特別食を増やした食事提供に努めた。また厨房機器等の入れ替えを行い、経年劣化による不便さを改善した給食業務を行えるようになった。

利用者の食事形態、トロミ剤や補助食品も見直し、「食べやすさ」を心掛けている。

また、2019 年度より重点目標として「給食会議の定期開催」が設定されたが、母体となる健康・給食委員会自体が定期的に行えず、達成とは言えない状況であった。次年度も継続となるため、「食事内容の充実」という課題解決に向けてまずは定期開催を行っていく。

６．健康管理

日々の心身の健康状態の把握、服薬状況の確認、医師やその他の専門家との相談、健康・給食委員会による情報提供などにより適正を期した。

インフルエンザＡ型に関しては、利用者 3 名、職員 3 名と昨年に比べ罹患者は軽減された。また比較的速やかに体調復帰し、深刻な問題とはならなかった。また、ノロウィルス・コロナウィルスは発症しなかった。

けが・入院等については、転倒により男性・女性入所者それぞれに骨折があった。また通所男性利用者に「蜂窩織炎」が発症し短期間の入院となった。

またリウマチ治療については、施設内での看護師による皮下注射を継続して行っている。

定期検診等の実施回数

内科検診	歯科検診	健康診断	体重測定	予防接種	往診歯科
10 回	1 回	1 回	12 回	2 回	20 回

医務室活動状況（利用者診療状況）

	内科	精神科	外科	整外	歯科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器	その他	
利用者通院延回数	276	305	7	23	320	2	16	263	2	3	1217 （↑）

※薬の処方のみの通院、園内処置を含む　※歯科の園内処置は往診歯科受診者　内科は往診

入院の状況

利用者	入院期間	入院日数	入院理由
A	平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 5 月 9 日	39 日	左大腿骨骨折

※入院日数は入退院日を除く

７．衛生管理

衛生管理については、清掃パート職員を中心に、園舎内の清潔に努めた。また、インフルエンザやノロ対策として次亜塩素水の生成器を設置し、日常的に生活環境の消毒を行った。その結果、今年度は感染症の発生を防ぐことができた。

日々の洗濯物は利用者や職員が行い、洗濯物たたみはボランティア（週日午前中）に依頼した。美容・理容については、施設内で美容師による理髪を低料金で実施した他、利用者の希望により地域の美容院を利用した。

８．防災対策

地震等の災害に備え今年度は、避難訓練とは別に発電機等災害備品の取り扱いについて、職員への周知徹底を目的に複数回訓練を実施していった。

避難訓練

実　施　日	項　　目	内　　容
5 月 26 日	避難訓練	火災想定（休日日中）
10 月 1 日	法人合同避難訓練	地震想定（平日日中）
12 月 16 日	避難訓練	風水害想定（平日日中）
1 月 21 日	避難訓練	地震・火災想定（平日日中）

防災訓練

実　施　日	項　　目	参加職員数
5 月	防災倉庫の整理、防災備品の在庫確認	5 名
7 月 29 日	発電機作動・灯光器点灯訓練　備品の点検・不足備品確認	28 名
11 月 26 日	施設内設備場所、機械操作の操作方法確認	19 名

９．オンブズパーソン相談状況

毎月 2 名のオンブズパーソンが来園し利用者からの相談を受けた。施設側への要望は 0 件、傾聴が主となっている。

オンブズパーソン活動実績

訪問日	オンブズパーソン	相談者	要望書件数
11 日	延べ 18 人	延 108 人（－21）	0 件(±0)

相談内容：人間関係 27 件　職員 18 件　食事 28 件　仕事・作業 26 件　その他 96 件

１０．危機管理等

ひやりはっと・事故報告について、部署毎、運営会議、全体会議にて、定期的に検討し周知した。

※上記の内、県及び市町村への報告は３件（骨折通院 1・その他通院 2）であった。
＊ヒヤリハットを事故報告に集約したため件数が増加している。

１１．苦情・要望について

今年度、苦情解決の仕組みで取り扱うものはなかった。一方要望等は日常的に支援員を通じて家族から上がっている場合が少なくないのでご本人やご家族の意向の確認に努めた。

１２．ボランティア・実習生の受入

ボランティアの内容

・日中活動補助　・合同プログラム（Ｔボール、フラワーアレンジメント、生け花、フラダンス）指導・洗濯たたみ　・星谷まつり

教育機関実習生受入れ状況

教育機関等	人数	延日数
横浜子ども専門学校（保育）	1	10
横浜創英大学（保育）	2	24
鎌倉女子大学（保育）	2	22
鶴見短期大学（保育）	2	22
東海大学（医学部）	6	27
湘北短期大学（保育）	2	20

その他の受け入れ

教育機関等	人数	延日数
有馬中学職場体験	2	4

１３.次年度への課題

（１）支援体制の見直し　（２）人財育成
（３）意思決定支援に基づいた個別支援計画の作成・アセスメント力を高める
（４）強度行動障害者支援の継続
（５）建物設備の対応　（６）給食会議の充実

２０１９年度　計画相談支援事業所ほしや事業報告

１．　重点目標への取り組み

(1) 星谷学園入所利用者のサービス等利用計画作成

計画未作成の利用者についてはサービス利用計画の作成を開始している。セルフプランからの切り替えについては各市の意向もあり、認定調査時の切り替えることで調整した。

(2) 相談支援員の育成

海老名市の相談支援事業所連絡会への参加や結夢相談員からのスーパーバイズを通して専門性が向上するよう努めた。兼務という状況から計画作成時間を確保することが難しく課題として残った。

２．契約者数および計画作成数

契約者数

	契約者
2019年度末	31

計画作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
サービス等利用計画書作成数	4	0	2	3	1	2	0	0	0	1	1	0	１４
モニタリング作成数	2	1	0	1	5	8	6	2	2	3	4	5	３９

３．次年度重点目標

（１）モニタリングの充実

（２）相談支援員の育成

２０１９年度　あまいろ事業報告

１．重点課題の取り組み状況

（１）重度障害者支援体制

・重度障害者支援対象利用者に対し、支援シミレーションシートを作成し支援の統一を図り、より本人に合った支援となるよう支援の修正を適時行った。

・４月より重度支援体制加算の請求を開始した。

（２）自閉症支援の質の向上

・スーパーバイザーを招いてのケース会議を６回実施し、事例検討を通して自閉症支援の考え方についても学んだ。

・外部講師による４回の自閉症研修を実施し、法人内他事業所職員と共に自閉症支援の質の向上に努めた。

・常勤１名が５日間の自閉症トレーニングセミナーに参加し知識を学んだ。１名が自閉症専門の他法人事業所へ実習した。

（３）利用者増員

４月・６月・11 月と計３名が利用を開始、5 月に１名が星谷学園入所のため退所となった。次年度は２名利用開始予定。

２．利用状況

入退所状況

	男	女	入退所前後の状況
前年度末利用契約者数	5 人	3 人	
2019 年度新規利用契約者数	2 人	1 人	
2019 年度退所利用者数	1 人	0 人	星谷学園入所
2019 年度末契約利用者数	6 人	4 人	

月別利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日	22	22	21	23	18	20	22	21	21	20	19	22	251
契約者数	9	8	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	
延べ利用数	174	167	149	162	127	146	154	155	151	144	141	154	1824

送迎利用状況

事業所送迎	家族送迎	他サービス利用	計
5 名	1 名	4 名	10 名

年齢

年齢	20～29 歳	30～39 歳	計
男性	3 名	1 名	4 名
女性	5 名	1 名	6 名

障害等級別状況

A1	A2	B1
5	4	1

障害支援区分

区分４	区分５	区分６	計
１名	４名	５名	10 名

重度障害支援加算対象者　８名

障害

自閉症	その他	計
９名	１名	10 名

３．活動内容

受注作業は、引き続きタオルたたみ・チラシ折り・アラミド繊維ほぐし・アルミはがしを行った。外作業として、アルミ缶つぶしを行った。今年度より綾瀬市浄水場除草作業に参加した。行事では成人を祝う会を実施した。

作業収入

項目	金額
タオル	87,396 円
ちらし	8,800 円
アルミ	360 円
アルミ缶	3,150 円
除草	53,280 円
収入計	152,986 円

工賃支払い２回(4 月・10 月)　1 日当たり 93 円　全日通所者 20,360 円(年間)

４．給　食

偏食の強い利用者に対し、別メニューを提供した。成人を祝う会では行事食を提供した。食事が楽しみや満足となるよう嗜好を観察しメニューに反映した。

５．健康管理

看護師により体重測定と血圧測定を毎月実施した。嘱託医は年３回訪問し、健診結果についての助言や、インフルエンザ予防接種を実施し、利用者の健康管理に努めた。健康診断は星谷学園にて２日間に分けて受診したことで、昨年度に比べ時間的な余裕を持つことができた。

６．防　災

避難訓練を３回実施した。

避難訓練実施日	内容
6 月 27 日	避難訓練（地震想定）
10 月 1 日	法人合同避難訓練(地震想定)　　２次避難所へ一部徒歩避難
11 月 26 日	雨天の為中止　　避難訓練（火事想定）
3 月 6 日	避難訓練（風水害想定）・消火訓練・通報訓練

７．苦　情　なし

８．研　修（外部）

7 月 18 日	強度行動障害対策研修「危機介入　ｾﾗﾋﾟｯｸﾎｰﾙﾄﾞ」	神奈川県	赤塚
7 月 27 日～31 日	自閉症療育者のためのトレーニングセミナー	自閉症児者親の会	安部
12 月 16 日	実践報告会	県知的障害施設団体連合会	小原

９．今後の課題

（１）自閉症支援の質の向上

・外部講師による研修やケース会議を定期的に開催し、支援の考え方を学ぶ。

・本人の望みを踏まえた将来の生活像を支援目標とし、日々の支援を組み立てていく。

・様々な困難を抱えた利用者支援が可能な実践力をつけ、利用者増員を図っていく。

（２）記録の効率化と活用

記録ソフトを活用し、重複した記録等を見直し記録の効率化を図る。また、内容や期間を絞って詳細な記録をとり、支援に活用していく。

２０１９年度　地域活動支援センター結夢事業報告

１．重点課題の取り組み状況

（１）活動プログラムの充実と新しい試み

ゆうむフリースペース登録利用者からの希望・意見を反映させて新しいプログラム「ランチタイム」「みんなDe晩御飯」の実施、また他事業所との交流やフリースペースの延長を取り入れた。

（２）利用者同士の交流の促進

利用者同士の交流として卓球・ボッチャなどのスポーツの実施やゲームをして人との関わりが苦手な人でも入りやすい雰囲気づくりを心掛けた。

（３）相談支援技術の向上

研修参加や「相談支援事業所連絡会」で行っているグループスーパービジョン参加の他、新規サービス等利用計画作成の際には、相談員間で検討会を行なうなどの取組みにより、相談支援専門員の相談支援技術の向上に努めた。

（４）障がい福祉サービスを超えた他分野との連携強化

研修参加に加えて、相談者とつながる介護保険や医療ケアの関係者から積極的に情報を得ることと連携に努めた。

（５）自立支援協議会の充実による地域力の向上

今年度も４つのチーム活動を継続しそれぞれの主体的な活動を支援し、昨年度に引き続き「合同事業所説明会2019」を企画開催。今年度は広報部「広げる」と児童系就労系の「事業所連絡会」が協力する形で取り組んだ。

２．実　績

（１）地域活動支援センター事業

①登録者数（2020年3月31日現在）　（前年度比較）

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	その他	計
128(+14)	29 (+9)	7(+3)	4(-4)	6(－１)	3(±0)	0	177(+21)

＊障がい名が明らかでない人を「その他」で分類

②登録者の状況

所属なし	通所	就労	学生（通信）	計
123	42	12	0	177

＊通所先と契約しているが、通えていない場合は、「所属なし」に含む

③ゆうむスペース利用状況

実施日数：234日　延べ利用者数：1513人　　1日平均：6.46人

（前年度比較257日　　1859人　　7.23人）

＊新型コロナウイルス拡大防止のため、3月はゆうむスペースを閉所。

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	難病	その他	計
1058	315	13	44	80	3	0	0	1513

④活動プログラム実施状況

実施回数：125 回　延べ利用者数：604 人（1 回平均：4.83 人）

（前年度比較 141 回　　756 人　　5.36 人）

＊新型コロナウイルス拡大防止のため、３月のゆうむスペースを閉所し各プログラムも実施せず。

プログラム	実施回数	参加延べ人数	プログラム	実施回数	参加延べ人数
満福亭（生活教室）	20	155	モーニング	4	21
ＤＶＤ鑑賞	9	32	みんなでランチ	7	38
調理	21	90	ゆうむ de 晩御飯	3	13
ミーティング	9	63	紙すき工房	1	6
寺子屋	22	83	外出プログラム	8	41
おやつ作り	1	3	かかしづくり	4	19
パソコンチャレンジ	8	14	季節のイベント等	8	26
			計	125	604

⑤地域交流支援事業実施状況

障がい者等が、地域社会の一員として、積極的に地域との交流を行い障がい理解の促進を図る事業

11 月（2 日間） 2 月（2 日間）	市内中学校 2 年生職場体験（2 名） 市内中学校 2 年生職場体験（8 名）	活動プログラム参加、在宅障がい者訪問同行

⑥地域拠点事業実施状況

地域の拠点とし広く門戸を開き、障害の有無に関わらず（総合福祉法の対象外でも支援が必要と認められる者）受け入れを行なう事業

1 月 29 日	「リフレッシュ体操」	3 名参加
2 月 6 日	「ボッチャ」	9 名参加

⑦制度のはざま対応事業実施状況

発達障がい者、高次脳機能障がい者等の相談支援や交流促進を図る事業

発達障がい	20 人	相談：延べ 213 件	地活：延べ　80 回
高次脳機能障がい	8 人	相談：延べ 47 件	地活：延べ　44 回

（２）相談支援事業の実績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ）	マネジメント	ケア会議
件　　数	330 人（−31）	2001（＋234）	2231（+143）	79（−16）

②月別状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
相談件数	174	180	190	194	164	166	185	133	163	165	130	157	2001
マネジメント等	219	198	187	198	190	194	174	160	163	181	166	201	2231
ケア会議	9	5	8	9	9	7	2	8	6	6	3	7	79
計	402	383	385	401	363	367	361	301	332	352	299	365	4311

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係人間関係	家計・経済	不安の解消	住環境	教育
件　　数	1486	4	87	51	18	209	32	2

就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満	その他	合計
22	1	28	61	2001

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	1101	479	195	32	194	2001

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
2300	1028	47	213	110	464	150	2	4314

⑥サービス利用計画作成の状況（2019 年 3 月 31 日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
92	34	6	7	3	18	1	161（＋16）

３．次年度への課題

（１）利用者のニーズに合わせた活動プログラムの充実
（２）障がい福祉サービスを超えた他分野との連携強化
（３）情報発信機能の充実
（４）自立支援協議会の充実による地域の体制づくり

２０１９年度　相談支援事業所結夢＋事業報告

１．重点課題の取り組み状況

（１）関係機関との連携の強化

海老名市からの委託相談事業所として「相談支援事業所連絡会」を通しての事業所間情報共有、体制維持の継続。また、介護保険などの関係者との情報共有の場への参加を通しての連携強化に努めた。

（２）相談支援技術の向上

「相談支援事業所連絡会」でのグループスーパービジョンでの事例提供や検討をすると共に結夢、結夢＋での新規相談ケースの検討の機会を通して相談支援技術向上に向け取り組んだ。

２．実　績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ）	マネジメント	ケア会議
件　　数	183 人（+23）	1397（+22）	2698 件（+3）	112 件（＋33）

②月別状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
相談件数	123	130	151	115	94	149	98	88	144	111	95	99	1397
マネジメント等	317	215	285	223	186	204	198	192	177	309	210	182	2698
ケア会議	12	9	12	8	6	10	10	7	7	12	7	12	112
計	452	354	448	346	286	363	306	287	328	432	312	293	4207

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係人間関係	家計・経済	不安の解消	住環境	教育
件　　数	1073	8	34	32	5	136	33	0

就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満	その他	合計
12	5	21	38	1397

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	627	379	206	51	134	1397

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
1572	139	33	560	516	1386	0	1	4207

⑥サービス利用計画作成の状況（2020 年 3 月 31 日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
115	5	1	6	6	22	0	155（+11）

３．次年度への課題

(1)　社会資源の整理、インフォーマルサービスの活用

(2)　相談支援技術の向上

(3)　サービス等利用計画の充実、関係機関や他分野との連携強化

２０１９年度ＳＥＬＰビナ事業報告

１．重点課題に対する取り組みと評価

【就労継続支援Ｂ型】

（１）地元企業との関係強化

施設外実習について、11 月より「井出トマト農園」に行っていたが、仕事内容やビナの勤務体制から、2 月に終了した。その為、今後は商工会議所等に協力を依頼しながら、施設外実習先を探していく必要がある。

（２）作業環境の充実

・作業環境については、パーソナルスペースが必要な方の席替えや、集団への適応力が向上した方を集団の中で活動していただく等、個別に合わせた作業環境を提供した。しかし、作業室の作りから、個別に合わせた環境を十分に設定出来ないこともあった。

・全国社会就労支援センターによる「工賃向上プロジェクト」を活用し、コンサルタントを受けながら、作業環境の整備（部材を入れるコンテナの統一、作業種による部材の整理。作業室全体のレイアウト変更等）を行った。

（３）作業量の安定供給と工賃の充実

・全国社会就労支援センターによる「工賃向上プロジェクト」を活用しながら、工賃に繋る作業種の検討を行った。また、新たな活動としては、海老名市社会福祉協議会の共同受注に積極的に取り組んでおり、除草作業・企業でのパン販売を行った。

・平均工賃は 14,685 円となっており、前年度比＋1,333 円となった。

（４）社会性を高める。

・店舗「PANBEENA」での販売活動を通じて、社会性を養うとともに、地域交流を図った。

【就労移行支援】

（１）一般就労へ向けた支援の充実

・ビナの作業を通して、体力や集中力の向上が図れた。

・ビジネス講座については、定期的に開催が出来ておらず、面接前に集中的に行った。

・今年度は 5 名の方が就労された。

【就労定着支援】

（１）定着支援の充実

・2019 年 6 月に就労定着支援の指定を受け、7 月より事業を開始した。

月一回、企業を訪問し、就業状況や生活状況を確認した。また、課題等がある際には、本人、企業、家族と連携しながら支援した。

訪問支援が基本であるため、人員不足から支援が難しい月があった。

○他事業所との連携については、「就労・生活支援センターぽむ」や「ハローワーク」、「相談支援事業所」、「各市障がい福祉課」、「海老名市社会福祉協議会」、「学校」、「企業」等協力体制を取った。また、各種会議・研修会へ参加した。

２．利用状況（2020 年 3 月 31 日現在）

入退所の状況

【就労移行】

年度当初在籍者数	男	女	備考
	5 人	0 人	
2019 年度入所利用者数	2 人	0 人	2019 年 4 月より 2 名
2019 年度退所 利用者数	4 人	0 人	2019 年 4 月に女性 1 名就労（前年度利用者） 2019 年 9 月に男性 1 名就労 2019 年 11 月に男性 3 名が就労
今年度末在籍者数	3 人	0 人	

【就労継続Ｂ型】

年度当初在籍者数	男	女	備考
	19 人	12 人	
2019 年度入所利用者数	1 人	1 人	2019 年 2 月に他 B 型事業所より男性 1 名、女性 1 名が入所
2019 年度退所利用者数	3 人	0 人	2019 年 5 月に男性 1 名介護保険サービスに移行 2019 年 1 月に男性 1 名他 B 型事業所に移行 2019 年 2 月に男性 1 名生活介護事業所に移行
今年度末在籍者数	17 人	13 人	

年度当初平均年齢・年齢構成

		19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60 以上	平均年齢
就労移行	男性	1	6	0	0	0	0	21.4
	女性	0	0	0	0	0	0	0
就労Ｂ型	男性	0	3	8	3	3	2	40.7
	女性	0	2	6	4	0	0	36.9

障害等級別状況

就労移行				就労継続Ｂ型			
A1	A2	Ｂ１	B2	A1	A2	B1	B2
0	0	4	3	5	9	１３	4

障害支援区分

区分	2	3	4	5	6	未認定
就労移行	1	0	0	1	0	5
就労継続 B	0	7	１２	5	0	7

３．支援内容

(1) 作業活動

受注作業については、6 社（雑誌の袋詰め、ガス警報器説明書加工、エプロンたたみ、溶接材加工、ＤＶＤリサイクル、水道メーターリサイクル）の仕事を請け負った。また、11 月 14 日から施設外作業として、「井出トマト農園」に行っていたが、仕事上の折り合いが付かず、2 月 25 日に終了となった。

その他、海老名市社会福祉協議会の共同受注作業に複数回申し込んでおり、市内公共施設や個人宅の除草作業、企業のイベント時にコッペパンの販売などを行った。

食品加工については、製パン・製菓を行っている。店舗「PANBEENA」の運営、海老名市

公立保育園用おやつパンと学校給食用パン、カフェへの食パン等を引き続き受注した。

製菓では、クッキー、ラスクを「JA グリーンセンター」や市役所「ぱれっと」で継続的に販売をした。

昨年度は、市内イベントに積極的に参加した。

(2) 就労会計

(収入)

項目	金額
受託１（水道メーター）	2,190,000
受託２（大洋テクノ他）	5,877,144
製パン	2,651,814
PANBEENA	1,589,677
施設外受託事業＊	390,487
その他	144,924
収入合計	**12,844,046**

(支出)

項目	金額
給与支給(賞与含む)	6,289,336
仕入れ材料費	2,010,474
光熱水費	916,921
消耗品費	237,312
賃借料	445,500
その他経費	1,620,190
減価償却	930,804
支出合計	**12,450,537**

就労支援事業活動増減　393,509

(3) 通所援助

送迎バス(マイクロバス)と送迎車（ワゴン車）を綾瀬市及び海老名市内に２台を走行させ利用者へ送迎サービスを実施した。

通所状況（延べ人数）

電車・バス	送迎車	徒歩・自転車	家族送迎	その他
21	23	3	2	0

４．給　食

ビナの昼食は、委託業者（株式会社ニチダン）との契約により提供されている。開所日の昼食提供の他、行事の際のオードブルなども事前打ち合わせをして依頼した。　昼食については、セレクトメニューを月１回実施した。

月一回、パンメニューの際は、事業所で焼いたパンを使用することにより焼き立てのパンを提供しており、利用者の皆様から好評を得た。

５．健康管理・衛生管理

利用者の健康管理については、日々の健康状態に配慮し、てんかん発作や外傷などがあった際には、必要に応じて家庭へ連絡を行い対応した。また、症状が軽い場合には、施設内で静養を促すこともあった。

利用者・職員については健康診断を年１回実施し、利用者は嘱託医師による内科検診を年１回、健康診断時に行う内科検診１回を実施した。検診の結果及び嘱託医師の助言等は家庭へ連絡し通院等の対応を行っていただいた。

インフルエンザの予防接種（任意）を実施し、手洗いやうがいの推奨をしながら、感染症対策を行った。また、一階作業室の加湿器をスペースに合わせた物に新調した。

清掃については、毎日作業後の清掃と毎週金曜日に事業所全体の清掃を実施した。

定期検診実施回数

内　　科	定期健康診断
1	1

（職員の健康診断は年１回実施）

６．作業時の安全管理

作業においては、ハサミやカッターなどの道具について、利用者に適切な使用方法を伝えると共に、軍手の着用を促すなど安全に配慮した対応を行った。

8 月と 11 月に作業室内のレイアウトを変更しており、作業部材の整理や、使用していない棚の撤去等を行い、更に安全で作業しやすい環境を整備した。

水道メーターや溶接棒など、重量のある物を扱う事を考慮し、安全靴、安全眼鏡などの防護器具着用を徹底し、安全に配慮した。

７．防災対策

防災については、海老名市の消防機関の指導により適正を期した。また、必要に応じて地震・火災に備えての訓練を実施した。

防災訓練実施状況

実施日	項　　目	内　　容	備　考
6.20	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	
10.1	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	
3.19	消火訓練・通報訓練・避難訓練	火災想定・風水害	

８．会計管理

会計管理については、星谷会経理規程、給与規程等にそって適正な会計処理に努めた。減収に対応するため積立金の取り崩しを行った。

９．　研　修

職員研修は、就労支援や作業に関する研修の他、支援スタッフ部会、事務研修などの定期的に開催される研修に参加した。

実施日	研修内容	参加者
5 月 30 日	支援スタッフ部会	渡邉
6 月 27 日	事務研修	宇高
7 月 22 日	商工会議所消費税監修	宇高
7 月 25 日	支援スタッフ部会	渡邉
8 月 5 日	特定処遇改善研修	宇高
8 月 23 日	事務研修幹事会	宇高
9 月 5 日～10 日	JC-NET ジョブコーチ養成研修	五十嵐
10 月 23 日	JA グリーンセンター食品表示研修	大滝
11 月 7 日	全日本自閉症支援者協会研究大会	五十嵐
11 月 8 日	全日本自閉症支援者協会研究大会	渡邉
12 月 10 日	ｅネット研修会	池下、五十嵐、白井
1 月 17 日	支援スタッフ部会	渡邉

1 月 21 日	ハローワーク就労パスポート研修	五十嵐
2 月 7 日	海老名市自立支援協議会	白井
2 月 12 日	県央東地区集権研修	渡邉、五十嵐、稲葉
2 月 13 日	（社福）足利むつみ会見学研修	白井、渡邉
2 月 21 日	（社福）武蔵野千川福祉会見学研修	白井、渡邉

１０．地域との交流

「PANBEENA」店舗にて、販売を通じて地域住民との交流を図った。また、複数市内イベントに出店した。

市内中学校の職業体験学習のために中学生の実習を受け入れるなどの協力を行った。

地域の祭礼に管理者が参加をした。

１１．苦　情

3 月 23 日、取引先である「株式会社ライフクリーニング」の外壁に傷があるとの報告を納品に行った支援員から報告がある。当事業所公用車の後方ドアと位置が重なることから、確証はないが可能性が高いと判断し、翌日、ビナ担当者と管理者で社長を訪問し、謝罪している。

１２．実習生、見学等の受け入れ状況

養護学校の実習生や他事業所からの実習を受けた。また、今年度は、市内中学校の職業体験を積極的に受けた。

・5/28　えびな支援学校生徒保護者見学会（30 名）
・6/10～21　えびな支援学校 2 年生実習
・7/9 えびな支援学校保護者見学会（7 名）
・7/26　座間養護学校生徒保護者見学会（30 名）
・8/2　えびな支援学校先生見学会（10 名）
・9/18　座間養護学校先生見学（2 名）
・9/30～10/11　えびな支援学校実習生
・10/15～25　えびな支援学校実習生
・10/15～25　座間養護学校有馬分教室実習生
・11/1～15　生蘭高等専修学校実習生
・11/7～20　座間養護学校実習生
・11/27、28　海西中学校職場体験
・12/24～26、1/21～22　他事業所所属利用者実習
・1/9、10　他事業所所属利用者実習
・1/7　今泉中学校支援級先生見学（10 名）
・1/23、24　海老名中学校職場体験
・1/29、30　今泉中学校職場体験

・2/5～6　柏ヶ谷中学校職場体験
・2/13、14　有馬中学校職場体験
・2/25、26　厚木清南定時制高校実習生

１３．次年度への課題

(1) 新規利用者の獲得
(2) 利用者の障がい特性の理解と支援方法の検討
(3) 作業種の見直しや開拓。施設外実習先の開拓（工賃向上）
(4) ビジネスマナー等講座の充実(就労移行支援)
(5) 定着支援の充実・業務の簡略化（就労定着支援）

２０１９年度　海老名市障害者第一デイサービスセンター事業報告

（指定管理による運営　通称：レインボードリーム）

１．重点課題の取り組み状況

（１）　個別支援の充実

・利用者の身体状況に応じ個別に運動をする機会を多く取り入れ支援を行った。

・自閉症の研修をもとに対象利用者の作業環境や声掛け等、統一した支援が行えるよう取り組んだ。検証や継続が不十分なため今後の課題となった。

（２）地域とのつながり

・社家小学校児童との交流や取引のある保育園とのかかわり等は継続した。事業所での新規イベントの開催は行えなかった。

・食品加工品のクッキーやジャムを市内のパン屋で委託販売を開始し販路の拡大を図った。

（３）サービス向上の取り組み

・ケース検討についてはケース報告会を月 2 回開催し利用者支援の情報の共有化を図った。またケース報告であがった課題に関しては適宜チームで検討し利用者支援が具体的にスムーズに行えるよう支援サイクル（月内で課題にアプローチし支援を行う）を作った。

・職員個々の目標、課題の見える化について書式や方法の具体化等できなかった。

（４）活動プログラムの検討

・ものつくりの活動ではクラフトの日を設け定期的にものつくりを行った。

・トマトジャムの製法の検討を行い商品の改善を図った。また食品表示方改正に伴う新規成分表示など行った。

２．利用状況（2019 年度末現在）

利用者の状況で 2019 年度 4 月当初、新規利用契約者はなく 39 名でスタートしている。11 月に入所施設利用の為に 1 名（生活介護）、2020 年 3 月に他事業所利用の為 1 名（生活介護）が利用契約を終了。2020 年 1 月に 1 名が利用契約（生活介護）し 2020 年度 3 月末の利用契約者は生活介護 30 名、就労継続支援Ｂ型 8 名の 38 名となった。

2 月～3 月にかけ新型コロナウィルスの影響により利用の自粛、入院手術による体調不良等による欠勤者もおり長期（1 か月以上）休みの利用者が増加した。

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	31	31	31	31	31	31	31	30	30	31	31	30	平均 31
	延べ人数	560	571	545	602	452	504	571	548	515	510	497	531	6406
就労継続支援Ｂ型	在籍者数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	平均 8
	延べ人数	136	129	129	148	115	121	138	129	122	122	119	141	1549

年間平均利用率：78.79%　1 日平均利用者数　31.1 人（土曜余暇含む／バザー含まず）

（2）利用者状況

年齢分布（2019 年度末）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男性	0	8	3	4	2	1	1	19
女性	0	7	2	5	3	2	0	19

平均年齢

男性平均	37.2
女性平均	39.4

障害支援区分

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
人数	0	0	6	13	11	8

生活介護平均支援区分　：4.8　　就労継続支援Ｂ型平均支援区分：3.6

障害等級別状況

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２
人数	10	13	12	3

送迎サービス実績

延利用件数	11,191 人	前年度比－945 人

３．活動内容

利用者が作業、活動を選択し決定しやすいよう様々な活動や作業を提供した。
自主製品活動ではフラワーアレンジメントの注文数が減った為、販売の継続が難しくなり活動・定期販売を中止している。今後については余暇活動に取り入れていく方向で検討した。

月２回のレクリエーション、日課で行う余暇等の活動では散歩、運動プログラム、ダンスの日の他、物づくりを主体で行う「クラフトの日」、通信カラオケ機器をリースし最新の楽曲が歌える「カラオケの日」を月間予定に組み入れ多くの利用者が参加している。
自治会活動では利用者の意見が活動や行事に反映できるよう継続し活動等の充実を図った。

地域との交流では社家小学校児童クラブとの交流、事業所近隣地域の美化活動の継続の他、市内ビナレッジ（交流館）１階のガラス窓に絵を描く活動や事業所合同で開催している「海老名この街で暮らそう」を継続した。

（１）　受託作業

ダンボールの貼り合わせ・組み立て、チラシ折り、梱包、紙袋のシール止め、エコキャップ、チラシの袋入れ、水道メーターの解体、タオルの選別、タオルの配送、市内国分寺跡除草、綾瀬浄水場除草など

（２）　自主製品・活動

食品加工、手芸、フラワーアレンジメント、やまゆりコサージュ作り、七宝画製作、クラフト、レクの日、ダンスの日、運動プログラム、ビナレッジガラス絵活動、カラオケの日

（３）イベント

土曜余暇活動（月１回）、日帰り外出、一泊旅行、季節のイベント（忘年会等）

（４）地域との連携等

施設内での自主製品や野菜の販売活動、食品加工品の市や保育園、地域障害者団体等からの受注、市内コミニティセンターからのエコキャップの搬入、実習者・ボランティア・見学者の受入れ、月 1 回の地域美化活動、社家小学校児童クラブとの交流事業、市内ビナレッジ（交流館）でのガラス絵活動、日中活動を通じて地域との関わりを図った。「第 15 回えびな・この街でくらそう」を 3 デイサービスセンター合同で実施。各主地域イベントへの参加（社家水道局（取水場）のフェスタ、こころのバリアフリー、法人作品展「きら星コレクション」、合同事業所説明会等、市内文化会館での催しに喫茶―コナーでの参加、キステック販売など)。

４．作業会計

作業収益では受注作業の減少、自動販売機の管理が海老名市に移行したことに自動販売機の売り上げがなくなった。自主製品では注文数の減少によるフラワーアレンジメントの販売中止、食品加工では個人用、催事用ギフトの注文数の減少があった。市内パン屋でクッキー、ジャムの委託販売を始め販路の拡大を図った。

収入

ＳＫパック	22,929 円	フラワーアレンジメント	75,106 円
ＡＳＵ	83,963 円	七宝画販売	35,000 円
プレスサービス	80,070 円	野菜販売	15,051 円
ファブリッククリーナーズ	68,465 円	食品加工	1,079,882 円
たすけ愛ゆずり愛	256,555 円	手芸	700 円
自販機売り上げ	24,381 円	キステック販売	20,700 円
除草作業（綾瀬浄水場）	53,280 円	えびな・この街でくらそう	176,400 円
除草作業（国分寺跡）	241,971 円	胸バラ・コサージュ	17,000 円
水道メーター	30,000 円	こころのバリフリー	5,600 円
エコキャップ	3,587 円	星谷祭り	10,950 円
プログラム・ハガキ・チラシ折	11,277 円	メーデーバザー	55,639 円
		フェスタ	23,340 円
		いちごフェア	17,500 円
		市民音楽祭喫茶	25,854 円
		絵画販売	5,000 円
		みずきフェスタ（雑貨）	500 円
		前年度繰越金	0 円
合計		2,440,700 円	

支出

材料費	567,709 円	利用者賞与	1,077,763 円
利用者給与	791,300 円	金種指定手数料	3,888 円
合計		2,440,660 円	

収入	支出	次年度繰越
2,440,700 円	2,440,660 円	40 円

＜備考＞　□全体平均工賃（生活介護・就労継続支援Ｂ型）：4054 円／月

□就労継続支援Ｂ型：4091／月

５．健康管理

看護師は月２回出勤。月１回の体重測定、日々の健康観察、年４回の嘱託医検診の他、歯科検診、利用契約者を対象とした健康診断をそれぞれ年１回実施した。嘱託医、看護師より健康状態や病気の予防等について助言を受けながら、必要に応じ適宜ご家庭や関係機関と連絡をとり健康管理に努めた。日中活動時においては服薬の支援、状況に応じ通院付き添いサービス、希望者を対象としたインフルエンザの予防接種を行った。

６．防　災

「地震」「火災」「風水害」を想定した避難訓練を年６回実施。災害時の役割分担、動きなどの確認、利用者の状態に応じた避難方法を検討し緊急時に適切に対応できるよう努めた。

７．職員研修

職員異動や退職に伴う職員配置上の課題もあり強度行動障害、行動援護、相談の研修には参加したがその他の外部研修にはｅネット研修、食品衛生管理者研修への参加にとどまった。支援上の課題については通常の職員会議の他、月２回ケース報告会を設け支援の課題の共有化を図った。個々のケースについてチームを設け職員間で課題等の検討を行い、全体に周知確認し具体的な支援の取り組みが適宜行われるよう取り組んだ。

８．ボランティアの受け入れ状況

土曜余暇活動１月「運動」で体操のインストラクター1名、２月「鍋」の活動で１名ボランティアを依頼。

９．今後の課題

（１）個別支援の充実

・個人の状態に合わせた個別プログラム、支援方法の充実を図る。
・個別の状況に応じた意思決定支援の方法について検討し取り組む。

（２）利用者増加に向けた取り組み

・利用契約者が減少傾向にある為利用者契約者が増えるよう取り組む。またサービス提供日を検討しサービス向上を図り利用日数の増加に向け取り組む。

（３）サービス向上・人材の育成

・職員の異動、退職に伴う職員の入れ替わりが従来より早いタイミングである。利用者支援において支援方法や利用者理解等標準化を図り支援の質の維持、向上について取り組む。

２０１９年度海老名市障害者第二デイサービスセンター事業報告

（指定管理による運営　通称：かっぱ堂）

１．重点課題に対する取り組みと評価

（１）個別支援の充実

・利用者さん一人一人の障害特性やライフステージに合わせ、自己決定、自己選択のもと、受注作業や活動、余暇活動、旅行等を提供した。

・個別支援計画等の説明で本人同席を基本にし、納得に繋がる説明を行い意思決定支援に取り組んだ。

・下半期より月に１回、契約利用者さん全員のケースの振り返りを行い、職員の共通認識のもと個別支援計画に沿って支援が進められるようにした。

（２）事業所近隣地域との繋がり

・月に１回、地域の清掃を行った。また農作物の無人販売を事業所で行った。

・近隣理解に繋がるよう自主製品の開発を進めている。

（３）リスク管理の取り組み

・ＰＣ共有システムで、予定と伝達事項を随時更新し情報を共有し、リスク軽減に取り組んだ。

・スローガンを設定し、具体的な環境整備等を行った。

・業務マニュアルの整備を行った。

（４）サービス向上の取り組み

・精神障害の方を含む長期欠勤者に対して、定期的な訪問支援を行った。

・出勤日以外の夕方も含めた電話による相談やいつでも相談をしたい時に利用出来るよう相談室および落ち着いた環境で作業や休憩が出来るスペースの設置を行った。

・外部講師による事業所内研修は実施出来なかったが、精神障害の方を受け入れている事業所との交流や見学、情報交換、また精神障害の相談事業所と合同でケースカンファレンスを行う等、精神障害に対しての理解を深める取り組みを行った。

・高齢化による身体状況の変化に対応する為、運動やリハビリを兼ねたダンスやストレッチを提供した。

２．利用状況

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	平均21.9
	延べ人数	356	363	345	418	318	344	371	394	355	340	331	361	4,296
就労継続支援Ｂ型	在籍者数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	平均14.9
	延べ人数	177	174	177	205	149	172	185	195	172	178	167	193	2,144

※ 年間活動日＝258 日　平均利用率 62.4%　　1 日平均利用者数　24.9 人

2 月 14 日生活介護・就労継続支援各 1 名退所

(2) 利用者状況（2019 年度末現在）

年齢構成※重複障がい含む

	A1	A2	B1	B2	身体１級	精神２級	なし	合計
男	3	6	3	3	3	5	1	24
女	0	3	7	0	0	2	0	12

平均年齢

男	38.6 歳
女	52.4 歳

障害程度区分

なし	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	平均
0	1	7	8	8	5	3.5（なし除 4.3）

送迎サービス実績

延利用人数	9,702 人	前年度比＋341 人

３．活動内容

利用者の自己決定・自己選択を尊重し、受注作業（タオルたたみ、チラシ折り、水道メーター分解等）・農園芸・散歩・室内運動プログラム（ダンス・ストレッチ）・水彩画・手芸・カラオケ・ゲーム・買い物等の活動、また例年行っている綾瀬浄水場と国分寺跡の除草作業、共同受注による落花生作りや海老名市役所の花植え等、利用者が活動を選択する形で毎日の活動に参加して頂いた。

また自主製品や新しい作業種も試行しながら適宜行った。

例年行っている一泊旅行、日帰り旅行、土曜余暇、かっぱ祭り、忘年会、餅つきに加えかっぱ堂３０周年記念行事、かっぱ堂単独で運動会も行った。

あおぞらパーティーや県障がい者ボーリング大会にも初めて希望者で参加した。

４．作業会計

(1) 受注・自主製品作業収入

畑	¥71,602	綾瀬浄水場除草作業	¥53,280
梅売上	¥4,800	自販機売上	¥15,228
ファブリックＣ	¥195,751	ドリンク売上	¥114,000
大谷小注文	¥40,000	映画チケット用缶バッチ	¥24,000
国分寺跡除草作業	¥241,971	共同受注	¥37,500
ＡＳＵ	¥50,000	コースター売上	¥400
エスケーパック	¥1,631	カレンダー売上	¥69,800
山室	¥910	クリスマスリーフ	¥500
付録作業	¥3,500	手芸品	¥1,600
水道メーター分解	¥210,000	缶バッジ	¥5,400
もち米販売	¥12,800		
柿販売	¥2,300		
たけのこ売上	¥2,500	**作業合計**	**¥1,159,473**

(2)イベント等の収入

メーデーバザー	¥153,800	えびなこの街	¥148,560
座間養護バザー	¥2,100	パンビーナ販売	¥1,750
星谷まつり	¥3,750	こころのバリアフリー	¥1,700
フェスタ	¥47,700		
映画会	¥4,400	**合計**	**¥363,760**

(3)収支

収入		支出	
作業収入	¥1,159,473	給与	¥381,600
イベント等の収益	¥363,760	賞与	¥843,854
前年度繰越金	¥21	材料費他	¥297,782
収入合計	**¥1,523,254**	**支出合計**	**¥1,523,236**

（昨年度の収入合計は 1,237,082 円。次年度繰越金 18 円）

※生活介護対象者を含む全平均工賃 3,330 円（昨年度 3,267 円）

５．健康管理・衛生管理

年 4 回の嘱託医検診、年１回の歯科検診、健康診断、インフルエンザ予防接種を実施した。また必要に応じてご家庭に連絡するよう努めた。月２回の看護師巡回の際に血圧と体重の測定を行なった。その際、利用者の健康状態を伝え、アドバイスを受けた。

新型コロナウィルス及びインフルエンザの時期に、ポスター掲示と手洗い・うがい、マスク着用を励行し予防に努めた。

６．防　災

避難訓練（火災・風水害）、水消火器を使用した消火訓練、通報訓練等、事業所で計３回の避難訓練を行う。また自主的に事業所内で職員に対し心肺蘇生法・ＡＥＤ講習を行った。

７．職員研修

実施日	研修内容	参加者
5 月 29 日	新任職員人権研修	米川
5 月 20 日	ｅネット総会	藤田
7 月 10 日～11 日	関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	星
7 月 23 日	全国知的障害関係施設長等会議	星
10 月 3 日	食品衛生責任者講習	藤田
11 月 5 日	県オンブズマンネットワーク交流研修会	星
12 月 10 日	ｅネット研修会	村尾、星、加川、藤田
12 月 10 日	県障害福祉職員実践報告会	加川

８.地域参加

事業所やバザーやイベント等で地域の方へ自主製品や畑でとれた農作物を販売した。

地域清掃と称し、作業時間に近隣のゴミ拾いを月１回行った。

例年発注して頂いている大谷小学校の運動会での粗品も販売した。

インフルエンザ・花粉症のシーズンにオリジナル缶バッチを作成し販売した。

９. ボランティア・実習生の受入れ

ボランティアの内容　日中活動の補助、木の剪定、畑手伝い

教育機関実習生受入れ状況　鶴見短期大学（保育）　1名　15日間

１０. 今後の課題

(1)　長期欠勤者への対応

(2)　利用率低迷への対応

(3)　意思決定支援、本人支援の拡充

(4)　畑の活用

(5)　食料品も含めた自主製品の開発

(6)　自主製品の販売方法の拡充・確立

(7)　地域との繋がりをつくる

２０１９年度　海老名市障害者支援センターあきば事業報告

（指定管理による委託運営）

１．重点目標の取り組み状況

（１）新規事業の定着

・今年度中に生活介護は＋８名、就労継続支援Ｂ型は＋５名の利用者が実習を経て契約されている。4 月に自宅療養されていた生活介護で契約されている男性利用者の容態が急変され 4/30 に逝去された。12 月末で他事業所利用の為、生活介護の契約解除された方が 1 名となり、3 月末での契約者数は生活介護 48 名、就労継続支援Ｂ型 15 名となり増収となる。

・カフェ“はみんぐ”では昨年度同様、地元の農家より野菜を仕入れ販売会を月 2 回実施しキーボード演奏ボランティアによる“歌声広場”を毎月一回の開催、9 月より市内図書館の本等の貸し出し・返却取次業務を開始している。又地域住民の方々より“カフェはみんぐ“での展示会の要望を受け作品展示会を 2 回実施した。売り上げは 160 万円/年間（昨年+10 万円）平均工賃支給額も前年度と比較して増額している。

・短期入所事業については、緊急的な対応が必要な短期入所については休日も営業したが平日の利用が主であった。契約者数 77 名（昨年+22 名）、利用率 55%（昨年+27.8%）となった。平日はほぼ毎日利用がある状況であった。日中一時支援事業の契約者数 28 名（昨年+10 名）、固定の方の利用により利用率はアップしている。経費削減については、他電力業者の見積りを取り５月に契約電力会社を変更して 50 万円/年間の経費削減となった。

（２）個別支援の充実

利用者一人ひとりの障害、個性、趣向を尊重した日中活動の提供を行い事業所での活動に満足感、充実感を持っていいただけるよう努めた。利用者の状態に合わせて必要な対応を検討するためその都度、グループ会議等を実施して対応の検討を行った。

（３）職員の資質の向上

法人の研修をはじめ、外部での研修への参加を促した。事業所の支援に必要な機能訓練や介護技術などの専門的な技術・知識の習得を目的とした事業所内研修を実施した。医療面の知識等については課題が残り次年度につないでいく事とした。

（４）人権意識の向上

人権チェックや人権研修等を実施し、常に人権擁護を意識しながら支援にあたるように努めた。

（５）サービス向上の取り組み

法人で実施した利用者満足度調査や自己評価の結果について職員会議にて具体的対応を検討しその実践を行うが事業所建て替えにより前回の調査と異なる環境になったため再度調査の必要を感じた。環境に影響されない内容については実践を行った。

２．利用状況

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	44	43	44	46	46	46	46	46	46	46	46	48	
	延べ人数	729	736	717	794	626	674	751	753	734	710	633	737	8594
就労継続支援Ｂ型	在籍者数	12	12	12	14	14	14	15	15	15	15	15	15	
	延べ人数	202	213	212	230	206	230	248	242	231	224	207	238	2683

年間平均利用率：75.2%（契約者）一日平均利用者数 45.1

(2)短期入所（宿泊）利用状況（2019 年 4 月～2020 年 3 月　）

契約利用者数	年間利用延宿泊日数	利用率
77 名（昨年+22 名）	794 日（昨年+597）	55%（昨年+27.8%）

(3)日中一時利用状況（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

契約利用者数	年間利用延日数	利用率
28 人（昨年+10 名）	146 日（昨年+119）	61%（昨年＋59%）

（4）利用者状況（2019 年度末現在）生活介護 48 名、就労継続支援 B 型 15 名

年齢分布

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	1	10	12	11	3	1	38
女性	0	9	7	4	3	2	25

平均年齢

男性平均	35.5
女性平均	37.1

障害程度区分

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均
人数	0	1	9	25	14	9	4.2

障害等級別状況

区分	A 1	A 2	B 1	B 2
人数	25	15	9	3

送迎サービス実績

延利用件数	12,339 人	前年度+992

３．活動内容

作業面では、従来の相模国分寺跡の除草作業を３デイセンターで共同受注に加え、又カフェ“はみんぐ”の売り上げが伸び利用者の工賃向上を図ることができた。紙袋の受注作業についての検討をはかり、年度途中に受注を中止している。

その他の活動では、陶芸、散歩、ウオーキング、農園芸、手芸、アートの日（1 回/月）納品・引き取り、スポーツ（北部体育館)、行事（夏祭り、もちつき、忘年会）等を提供した。入浴サービスの利用希望者が利用者増と共に増え、年度後半ではほぼ毎日実施する状況となった。リラクゼーション、トレーニングについては専門職員（PT）と嘱託契約を締結してアドバイザーとして定期的に事業所に来所して利用者毎の機能訓練等の活動内容のアドバイスを受け活動内容に生かしていった。余暇支援として日帰り外出（1 回／一人)、一泊旅行（1 回／一人）土曜余暇（2 回／一人）を実施した、今年度は重度自閉症の方々にも提供している。

４．作業会計（2019 年度分）

収入

紙工小師	¥183,527	3 館ﾌｪｽﾀ	¥4,500
厚木紙工	¥1,289,270	こころのバリアフリー	¥6,450
プレスサービス	¥49,466	ぱれっと	¥4,655
たすけ愛ゆずり愛	¥65,185	えびなこの街でくらそう	¥227,100
エコキャップ	¥2,705	フェスタ	¥ 51,700
泉橋酒造	￥3,296	メーデーバザー	¥102,750
農園芸	¥53,840	陶芸教室	￥7,700
手芸	¥33,300	星谷まつり	¥12,050
パソコン受注	¥295,000	座間養護学校交流の広場	¥13,650
カワバタプリント	¥4,540	自動販売機	¥76,447
芋掘り	￥20,000	カフェはみんぐ	￥16,12,140
もち米販売	￥1,000	はみんぐ出店	￥5,800
ピーエスビバレッジ	¥9,166	映画上映会	￥7,400
陶芸	¥8,500	利子	￥2
国分寺除草作業	¥241,973	前年度繰越金	¥171,535
綾瀬浄水場除草	¥53,280		
ｺﾐｾﾝ祭り	￥2,000		
合計		¥4,619,927	

支出

材料費	¥1,153,062	利用者賞与	¥590,630
利用者給与	¥2,702,274	銀行手数料	¥3,924
合計		¥4,449,890	

収入	支出	次年度繰越
¥4,619,927	¥4,449,890	¥170,037

利用者平均工賃支給額（全体）4,715 円／月（生活介護＋就労継続支援Ｂ型）

8,356 円／月（就労継続支援Ｂ型）

５．給　食

給食は業務委託により提供している、利用者の食事形態等についてはその都度見直しが必要な際には業者に連絡し対応した。月１回のセレクトメニューを実施した。給食委員会を２（回／年）実施して業者との連携を図った。家族会より給食試食会実施の提案があり 10/10、1/17 の２回、給食試食会を実施しアンケートを取り、感想等の意見を業者へ報告し改善依頼をした。２回目のアンケート結果の意見としては、ほぼ好評価を得た。

６．健康管理

看護師により月 1 回体重測定及び血圧測定を実施、年 4 回の嘱託医検診の他、歯科検診、胸部Ｘ線間接撮影、血液検査、尿検査等の健康診断を年１回実施した。今年度の健康診断は当事業所の建物内で行う初の実施であった、利用者数も増え多少終了に時間を要する状況となった。１０月に看護師を１名配置した。

７．防　災

「地震」「火災」を想定した避難訓練をそれぞれ１回行い、防災訓練に際しては、事前、

事後の職員間での話合いを行い、利用者のスムーズな避難ができる方法の模索を繰り返し行ってきた。また、法人全体での通報訓練も実施した。風水害を想定した避難訓練は未実施となり課題となった。2/15 海老名市主催の福祉避難所訓練をあきばで実施した。

８．苦情・要望

クレームが 4 月に１件あった。苦情内容は契約時に重要事項説明に記載されたサービス提供時間と実際のサービス提供時間の相違と送迎車両の不備についての内容であった。法人の苦情解決の規定に沿って、聞き取りや検討の結果を家族に報告し、謝罪した。6 月にご家族からの正式な回答を頂き職員間で周知した。

９．職員研修

法人内の研修、外部研修に積極的に参加した。事業所内の介護技術等の研修会を実施して必要な技能・知識を学ぶ機会とした。

2019 年度外部研修参加者

日　程	研　修　内　容	参　加　者
7 月 10 日 ～11 日	第 50 回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会 神奈川大会	白石雄希
9 月 9 日	介護職員のための仕事の姿勢確認研修	遠藤みさき
12 月 10 日	eネット職員研修会	遠藤みさき
1 月 31 日	行動障害への実践的アプローチを中心に支援現場が直面する様々な課題を考える	青山英里

10. 地域との連携

カフェ“はみんぐ”にて 4 月よりキーボード演奏ボランティアの受け入れ 1（回/週）店内でのキーボード演奏を始めている。５月よりキーボード演奏に合わせ歌を歌う“歌声広場”（１回/毎月）を開催している。９月よりカフェ“はみんぐ”にて市内図書館の本等の貸し出し・返却の取次業務を開始している。地域の方よりカフェ“はみんぐ”での作品展示会開催の依頼を受け、６月と 11 月に店内での作品展示会を約 1 ヶ月間それぞれ開催している。これらの状況により徐々に地域の方々に知って頂ける場となりカフェの売り上げ増収の要因となった。

今年度も、自治会との共催で、「陶芸教室」を行い、利用者と地域の方とのより深い係りを持つことができ、参加をした子供達に障がいのある方への理解や事業所を知って頂く良い機会になっている。

11. 今後の課題

(1) 個別支援の充実

身体障がい、知的障がい、内部障がい（高血糖、低血糖、在宅酸素使用者など）高次脳機能障がいと、障がい特性も様々になり又利用者数が急増した為日中活動の班

編成及び活動メニュー等の検討が必要な状況となった。

(2) 職員資質の向上

利用者さんの多様化に伴い、さまざまなニーズに応えられるように、外部研修に積極的に参加し、質の高い支援を提供できるよう努める。又事業所内にて介護技術や医療等必要な研修会を実施して必要なスキルや知識を身につけ資質向上を図る。

新人職員の育成の手段としてサポーターを配置して定期的な相談・指導の場を設けて職員育成を図っていく。

(3) 新規事業の定着

利用者増を向けた支援学校への営業活動、支援学校の実習生の受け入れ、相談支援事業所等の連携を図っていく。

節電、時間外勤務の削減を図り運営の安定化を目指していく。

短期入所の土日休日営業について次年度実施に向け必要な準備を実施する。

２０１９年度　グループホーム事業報告
（みずき　しおん　とんぼ　かぶとむし　はなきりん　てんとうむし）

１．重点目標の取り組み状況

（１）支援の質の向上

ホーム毎に常勤職員をそのホーム担当として配置し、常勤職員を中心に利用者支援における状況把握および支援方法の確認、その他の情報など円滑な共有を図るとともに、経験の浅い職員へは本人理解、障害理解を深められるよう日頃から助言などを行い育成に努めた。しかし、ホーム内部での意見交換や検討が多いため、他事業所とのケース検討の実施や外部からアドバイザーを要請するなど、より職員個々の専門性を高めると同時に全体の支援の質の向上に努めていく必要がある。

（２）生活の質の向上

食材宅配業者から栄養士監修の栄養バランスの良い献立と新鮮な食材を毎日手作りした温かい食事の提供、毎日の入浴、ホーム内の衛生保持、日用品の管理などとともにアットホームなコミュニケーションを心がけ、家庭的な生活環境に努めた。

（３）人権意識の向上

日々の支援の中での利用者との関りの場面や職員会議での支援方法など確認、検討する時なども常に人権を意識するように努めた。ホームは生活を送る場所であるため必然的に密室性が高いことと、ひとりで支援に当たる時間も多い環境となるため、継続して職員個々の人権意識を高め、利用者の人権擁護に努めていく必要がある。

（４）預り金の適正な管理

預り金は所定の場所で管理し、預り金の使用時は速やかに支出と残金の確認、出納簿への記録、領収証など貼付し、常勤職員と管理職員で毎月に現金、出納簿、領収書など確認するなど適正な管理を徹底し、事故防止に努めた。

２．利用者の状況

入居利用者及び職員配置

住居の名称		定員	入居者	世　話　人 生活支援員	日中活動の場
みすき	みずき	４人	４人（女）	８人	デイ、就継Ｂ
	しおん	４人･体験１人	４人（女）	４人	民間会社、学園、就継Ｂ 、デイ
	とんぼ	５人	５人（男）	５人	就継Ｂ、ディ　学園
	かぶとむし	９人	９人（男）	７人	就継Ｂ、民間会社、ディ
はなきりん	はなきりん	８人	７人（女）	９人	民間会社、学園、デイ
	てんとうむし	９人	９人（男）	９人	就継Ｂ、学園、デイ

新規入居者：０名　退所者：１人　　入居前の住まい：在宅 28 人、入所施設６人、他ホーム４人

障害支援区分

	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
みずき				2		2
しおん	1		1		1	1
とんぼ				2	1	2
かぶとむし		2	1	4	2	
はなきりん			3	2	1	1
てんとうむし			1	6	1	1

利用実績（述利用日数）

	年間利用日	前年比	年間利用率
みずき	1,201 日	-30 日	82.0%
しおん	1,377 日	-36 日	75.2%
とんぼ	1,485 日	-16 日	81.1%
はなきりん	2,307 日	-124 日	78.8%
てんとうむし	2,516 日	-73 日	76.3%
かぶとむし	2,789 日	-37 日	84.6%

※体験利用　しおん 121 日　　契約者 18 人

３．体験宿泊の受入れ

ホームしおんの一室を男女の体験宿泊用として確保し、将来グループホームの入居を考えている方やグループホームが生活の場の選択肢となるか試行したいなどのニーズに応じた受け入れを行ったが、構造的な問題で特に男性の重度の方の受入れは大きな課題が認められた。

４．余暇活動支援

ホーム毎で長期休暇等に外出企画などの計画やクリスマス会、節分など季節に合わせた行事の提供の他、星谷まつりや地域の催しなどに参加した。

また、ガイドヘルパーを利用した個別外出の調整などを行った。

５．防　災

ホーム毎に火災・地震を想定した避難訓練や通報訓練を実施し、災害時の対応について訓練を通じて確認した。

６．今後の課題

(1) 支援体制の見直し
(2) 支援の質の向上
(3) 人権意識の向上
(4) 入居者の定員の充足
(5) 新規ホームの設置

２０１９年度 地域生活支援センター ここ・すき事業報告

１．重点目標の取り組み状況

（１）安定したサービス提供

これまで継続してサービスを提供している利用者については、一部を除きそのサービスを維持することはできたが、また近年に契約した方や不定期に利用される方については、利用日をヘルパーの都合に合わせてもらうなどでサービス提供をしている現状であり、サービスの提供は安定しなかった。

（２）ヘルパーの補充と確保

新たなヘルパーの登録はほとんどなく、補充が進まなかった。また、ヘルパーの高齢化により全体のヘルパー人数も減少し、ヘルパーの確保も難しい状況であった。

（３）ヘルパーの質の向上

担当するヘルパーが初めて関わる利用者への活動では、事前に基礎情報の提供や打ち合わせを密にし、しばらく活動に同行しながら助言や説明を丁寧に行い、ヘルパー活動中の利用者支援が的確に行えるように努めた。

（４）事業形態の見直し

登録ヘルパーの全体の人数が年々減少しており、そのヘルパーの高齢化が顕著であること、有資格者の居宅介護ヘルパーも極めて少ないこと、ヘルパーの補充が進んでいないことなどの現状を踏まえ、居宅介護・移動支援とも今後の事業形態の見直しを図る必要がある。

２．２０１９年度を振り返って

有資格者の居宅介護ヘルパーが年々減少し、今年度も一部の居宅サービスを他事業所へ引き継ぎしたため、居宅介護の実績が更なる減少となった。

移動支援サービスにおいても、近年より新たな利用者との契約やグループホーム入居者への定期的なサービスを提供することで、実績の維持や増加に努めてきたが、登録ヘルパーの高齢化が顕著であり、年度毎に全体の登録ヘルパーが減少していく一方で積極的に利用ニーズに応え安定したサービス提供ができる体制は築けなかった。

今日の経過からここ・すきの実績の低迷が続いている要因として、慢性化しているヘルパー不足と高齢化により永続して活動できるヘルパーがいないこと、ヘルパーの世代交代や充足することが困難になっていることなどが挙げられ、また障がい者を対象とした居宅介護事業所も増えたこともあり、これらを踏まえ次年度は具体的にここ・すきの事業形態などの検討をし、今後の方向性を見極めるとともにその準備を始める時期にある。

３．契約利用者状況

(1) 契約者数

児童	成人	身障	合計
２人	８６人	４人	９２人

(2) サービス種別

	児童	成人	身障	合計
移動支援	２人	８９人	１人	９２人
居宅介護	０人	４人	３人	７人

＊同一利用者が移動支援と居宅介護を契約している場合がある。

４．登録ヘルパー及び常勤スタッフの状況

登録ヘルパー	２４人
サービス提供責任者	１人
非常勤ヘルパー	１人
常勤ヘルパー	１人　（兼務）

５．利用実績

	児童		身体		成人		計		前年度比	
	件数	時間	件数	時間	件数	時間	件数	時間	件数	時間
移動支援	0	0	28	169.5	670	2073.5	698	2243.0	＋42	－159.5
身体介護	0	0	280	457.0	52	83.5	332	540.5	＋30	＋30
家事援助	0	0	57	109.5	47	71.0	104	180.5	－89	－178.5
計	0	0	365	736.0	769	2228.0	1134	2964.0	－17	－308.0